

《各学年の特徴》

- 1年 すすんで造形活動に取り組み、表現活動を楽しんでいる児童が多い。用具を適切に使うことが難しい児童もいる。
- 2年 すすんで造形活動に取り組み、発想力豊かに表現できる児童が多い。用具を適切に使う力もあるが、個人差がある。
- 3年 積極的に造形活動に取り組み、表現できる児童が多い。作品と最後まで向き合い、深めていくことが難しい児童もいる。
- 4年 積極的に造形活動に取り組み、表現できる児童が多い。表したいイメージを持って、表現することが難しい児童もいる。
- 5年 主体的に造形活動に取り組み、表現できる児童が多い。表したいイメージを持って取り組み、深めていくことが難しい児童もいる。
- 6年 主体的に造形活動に取り組み、考えながら制作している児童が多い。表したいイメージを持って取り組み、最後まで粘り強く表現することが難しい児童もいる。

育てたい力（課題）

- 1年 用具を適切に扱い、豊かな発想で表現する力。
- 2年 めあてに沿って、用具を適切に扱い、豊かな発想で表現する力。
- 3年 用具を適切に扱い、様々な材料に触れ、表現豊かに最後まで作品に取り組む力。
- 4年 表したいイメージを基に、材料や用具を適切に使い表現する力。
- 5年 既習事項を生かして、自分の表したいイメージを基に、取り組む力。
- 6年 既習事項を生かして、自分の表したいイメージを基に、粘り強く表現する力。

☆授業改善の具体策☆

- ・担任との連携 ・学校行事との関連化 ・安全指導の徹底
- ・題材のめあてを明確にする ・題材、材料の工夫 ・伝えたいことを表す活動
- ・友達の作品を鑑賞し合う場の設定 ・ICT機器の活用

- 低学年 題材のめあてを明確にする。用具の使い方や制作の手順などを、ICT機器を活用して、視覚的に理解しやすくする。
- 中学年 様々な材料に触れられる題材を設定する。また、ICT機器を活用し、用具の安全な扱い方や、造形的な視点を理解しやすくする。
- 高学年 生活の中の造形的なよさや美しさに気付かせられる題材を設定する。さらに、前学年までの材料、用具を生かせる題材を設定する。ICT機器を活用し、既習事項を振り返ることができるようにする。

- 低学年 五感を使って材料に親しむ活動を行う。また、表現の幅が広がるように、児童の発想を認める言葉かけをしたり、見本を複数提示したりする。
- 中学年 表現の幅が広がるように、ICT機器や、資料を活用し、見本を提示する。様々な材料に触れられるようにする。担任と連携し、児童の実態に合わせた指導を行う。
- 高学年 導入時に、児童が自分の興味や願い、経験などをワークシートで振り返られるようにし、表現の仕方について考えを深められるようにする。

- 低学年 友達と関わり合いながら創作活動を行うことで、自分の作品をより良いものにしようとする態度を養う。
- 中学年 友達の作品の良いと思うところと、その理由をグループで話し合うことで、友達の豊かな考えを知り、作品に生かそうとする態度を養う。
- 高学年 友達の作品の良いと思うところと、その理由を話し合うことで、友達の豊かな考えを知り、作品に生かそうとする態度を養う。また、既習事項を生かせる題材を設定し、より良い作品にしようとする主体的に創造する態度を養う。

《知識及び技能》

《思考力・判断力・表現力等》

《学びに向かう力》